

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ①グリーン分野 (2/6)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
次世代エネルギー ・モビリティ創造特区 (豊田市)	4.6	4.4 進捗度 ・再生可能エネルギー(太陽光、小水力等)の地産地消率の向上 241% ・モビリティの活用によるCO2の削減(運輸部門) 71% ・市域経済の成長 100% ・市民満足度の向上 93%	3.9 規制の特例等 ・HEMS(ホームエネルギー・マネジメントシステム)を介したスマートフォンによる遠隔操作 財政支援等 ・人がつながる”移動”イノベーション拠点 ～高齢者が元気になるモビリティ社会～ 等 地域独自の取組 ・豊田市エコファミリー支援補助金 等	5.0	<p>・家庭用のスマートホーム、産業用のサステイナブルプラント、経済的波及、市民満足度と、広く全般的な波及をとらえる経済指標に関して、目標値を達成しており、極めて順調に進捗している。</p> <p>・自動車産業がCASEと呼ばれる大きな転換点にある中、PHVやEVなどへの転換の道筋を見極め、SDGs未来都市にも選定されたことを契機に、進捗評価に記載されているようにMaaSなど今後の取り組みに対しても期待する。</p> <p>・財政支援の活用実績にも示される、COI事業の、超高齢者社会に対応した、高齢者が元気になるモビリティ社会による健康寿命増進は有意義であり、各種実証事業の推進、社会実装に期待したい。</p> <p>・代替指標(A-2-1)の実績値が減少傾向にあることについて要因分析が必要ではないか。</p>